

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 5 1	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Aging and drinking problems among mature adults: the moderating effects of positive alcohol expectancies and workforce disengagement.</p> <p>退職間近な労働者における加齢と飲酒にまつわる問題;年齢とともにアルコール依存、離職傾向を緩和する</p>	
執筆者	
Bacharach S, Bamberger PA, Sonnenstuhl WJ, Vashdi D	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Stud Alcohol Drugs.2008; 69: 151-159.	
キーワード	
longitudinal study, problem drinking, aging 縦断研究、問題飲酒、加齢	
要 旨	
<p>目的: 定年退職間近な労働者における加齢と飲酒にまつわる問題の関連、及びアルコール依存と離職の関係について検討する。</p> <p>方法: 3つの部門(建設、製造、輸送)に属する退職間近な労働者を5期(T1~T5)にわたって追跡する縦断研究を行った。T1は定年退職が可能になる日の6ヶ月前、T5はその4年後である。T1では1,122人が調査に参加し、T5では917人が参加した。問題となる飲酒状況は5期の各時期においてDrinking Problem Indexを使い評価された。アルコール依存についてはAlcohol Outcome Expectancies ScaleによりT4とT5に評価された。離職状況についてはT5における対象者の就業状況(定年退職してもよいがまだ働いている、もしくは完全に退職している)により評価された。比較する上でそろえた条件は、属している部門、T1における年齢、性である。</p> <p>結果: アルコール依存は、年齢と飲酒にまつわる問題の関係を弱める傾向があった。すなわち飲酒に関する問題と強い相関があるのは年齢ではなく、アルコール依存が強いと問題飲酒が増加し、アルコール依存が弱いと問題飲酒は減少するという結果であった。離職状況については、続けて就業している人では上記の結果がよりはっきり出ており、その一方で完全に退職している人ではアルコール依存というよりは年齢が飲酒にまつわる問題と関連していた。</p> <p>結論: この結果は、比較的年齢の高い集団、特に退職を目前にした集団におけるアルコール依存の飲酒に関する問題との関連についてより深い知見を与えるものである。被雇用者/メンバー補助プログラムの重要性について今後議論していくべきである。</p>	